

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	外国人に対する漢字教育
Author(s)	ボゲ, ネツラ アルン
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 22期 : 1 - 8
Issue Date	2008-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038813
Right	
Relation	



外国人に対する漢字教育

ボゲ・ネツラ・アルン

1 研究の目的

日本語を勉強する外国人にとって、平仮名や片仮名に比べて、漢字の方はずっと難しく思われる。進級するとともに、漢字の範囲も広まっていく。効果的な勉強方が分らない限り、学習者も大変苦勞するものだ。

数多くの漢字を教えることも日本語の教師にとって、容易ではない。学生に漢字を覚えさせるように、教師としてどんなことを工夫しなければならないかを調べて行きたい。

日本語の学習者達に漢字の勉強が負担ではなく、楽しみとして考えていただければ望外の喜びだ。

具体的に言えば、以下のポイントが研究の目的になる：

- * 漢字が覚えやすくなるよう、どう教えたらいいか。
- * 効果的に漢字を勉強する方法

2 教師向け研究書

武部(1989)には、漢字を教える際、教師が留意しなければいけないことや、漢字の教授方法が述べられている。この本は日本語の教師向けに書かれているもので、漢字の背景が中心とされていることがわかった。

まずこの本で、漢字が図形であるということに重点が置かれている。これについて、教師は漢字を教える時、鳥・馬・魚、の絵を見せて、bird, horse, fish、と言わせることは、極めて容易である。同じように、その絵を単純にして漢字に近い形で見せてもよく見分けられて誤りがない。最後に漢字、鳥・馬・魚、を見せて、bird, horse, fish、を区別させることも、決して難しくはない。

しかしながら、絵で表せない漢字も数々ある。この漢字を覚える方法が下記のように書かれている：

例えば、

- 1) 影： 日は太陽。京はミヤコというケシキ。そのカザリがカゲ、
- 2) 仮： ヒトが反対の形になっている意味。カリの姿のこと、
- 3) 採： 最はモットモ。テでモットモよいものをトリイレルことなど。

上記のように、漢字を分解して覚えることもあれば、絵を通して覚えることもある。

この本で、漢字の覚え方が書かれているものの、書き順や熟語の勉強にあまり重点を置かれていないことが感じた。漢字を覚えたとしたって、会話での使い方が分からないと、意味がない。要するに、『覚える』はできるものの、『習う』ことができない。覚えて習う

ことがその場でできたら、漢字の勉強が能率よくできると思う。

次に形声文字の字音について、以下のように述べられている。

漢字の字音というのは、その漢字の中国語としての読みに基づくものである。しかし中国語を学習しても、日本の漢字の字音を知ることは容易ではない。それよりも、漢字の字体から字音のカギ考えるほうが役に立つ。一般に形声文字と呼ばれている漢字の場合が、これである。

例えば、包を基本部分とする漢字、抱・泡・砲・飽、であるが、いずれも字音はハウである。こういう場合には、基本部分が、意味だけでなく、字音も併せ示すことになるから、そのうちの一つが既習であれば、他の漢字家族の字音を類推することも可能である。さらに、例を示せば、次のようになる。

* 守 (まもる・シュ) : ウカンムリはヤネ。寸はテの形で、点は脈を打つところ。ヤネの下から逃げないように、テで押さえる形でマモルのが守である。基本部分として、マモルに用いる。

* 狩 : ケモノヘンは、ケモノの意味。ケモノを追い込んでマモル形のカリが、狩である。字音。シュ。

上記のように、漢字家族がまとまった形で書かれていれば、学習者にとって何よりだ。けれども、ここで強調したいのはアテジである。漢字の音読みと訓読みがわかったところで、アテジが全然手付かずのままではよくない。訓読みや音読みと同じよう、熟語やアテジにも注意を払わなければならないと思う。

3 方法

次のような日本語学習者向けに書かれている漢字の本を研究のため使った。

- 1) 松岡龍美(1995年)『日本語能力試験に出る漢字2級』国書刊行会
- 2) 田中かおる&藤井ひろし(1997年)『漫画で攻略—二字熟語なんて怖くない』実業之日本社
- 3) 金田一 春彦(2004年)「小学生の漫画漢字字典」学習研究社
- 4) 氷井津記夫(1999)「Nine House Kanji Quiz」株式会社アスク

上の資料1、2、3で下記のことを見た：

- * 漢字の提示順番
- * 漢字の熟語にイラストが付いているかどうか
- * 漫画を通して漢字からできた熟語などの実際の使い方が教えられているかどうか

4 分かったこと

4-1 資料1)

この図書は外国人の学習者向けに書かれている。一冊の本を通して、たくさんの漢字が

覚えられるということを目標に、漢字が提示されている。漢字は訓読みや音読みやアテジによって、まとまっている。しかも、各課題は練習問題付だ。例文を通して、熟語の使い方が書かれていたが、漢字にはイラストが付いていなかった。

「1つの音」の漢字はアイウエオ順に整理してある。同様に、「2つの音^注」の漢字もアン、イン、ウン、エン、オンという順番に書かれている。

多くの人に覚えがたく思われる当て字は一つの課題にまとまった形に整理してある。数多くの当て字の勉強がその場でできたら何よりだと思う。

上に述べたことを一つ一つ見ていこう：

漢字の提示順番：音読みと訓読みは別々に配置してある。

1 1つの音の漢字

イ

以 以上、 以下、 以外、 以内、 以後、 以降、 以前、 以来

医 医学、 医療、 医者、 医師、 医院

位 位置、 地位、 単位 くらい

ウ

宇 宇宙

など

2 2つの音の漢字

例：

アン

安 安全 安心 安定 安易 不安 やすい

ウン

運 運転、 幸運、不運、 運河 はこ・ぶ

以下、エン、 カン、 ガン、 キン、 ギン、 クン、 グン、 ケン、 ゲン、
コン、

サン、 ザンなどと言う風

3 訓読みの漢字

イ

^{くわい}位 位が高い 位が上がる 一の位 十の位

困む

ウ、エなど

4 訓読みだけの漢字

^か掛ける、 ^こ込む、 ^き咲く、 ^{とど}届けるなど

5 特別な読み方

田舎 (いなか) 笑顔 (えがお) 大人 (おとな) などという風

4-2 資料2)

この本は日本人向けに著されている。小学校6年生から中学生を対象にしている。各漢字にイラストもついていれば、文を通して熟語の使いわけも載っている。また漫画をとおして言葉の使い分けがきちんと整理してある。

漢字は同音異義語や対義語のような形でまとめられている。そして、それぞれには説明がなされている「カッコで示す」。

1) 同音異義語は(読み方が同じで、意味が違う字のこと)

例えば、関心：あるものや人に心を引かれて、もっと知りたいと思うこと
感心：優れた行いなどに深く感ずること。また、ほめる値打ちがあること

2) 対義語：(正反対の熟語)

例えば、

軽卒：よく考えないで軽々しく言ったり行動したりすること

慎重：注意深く落ち着いていて、軽々しく言ったり行動したりしないこと

3) 類義語：(意味が同じく見えてもそうではなく、少し差がある漢字のこと)

日本人ならば、類義語の使い分けがよく知っているものの、外国人にとって一番混乱しやすいところは類義語だと思う。

簡単：簡単というのは手軽で、わかったりできたりすること。込み入っていないこと。

容易：誰でも易しく簡単にできること。

4) 読み方で意味がわかることば；

分別：種類別にわけること

本を内容に分別して、本棚を整理した。

分別：ものごとの善し悪しなどを見分けること。

小さい時からあの子は、分別のある子と、評判だった。

5) 当て字：

全ての当て字はまとめて整理してあった。

4-3 資料3

下記に述べた課題つまり「漢字の起こり」「漢字の成り立ち」「漢字の部首」はこの本で別々の章になっている。この本の目的は漢字の基礎的な勉強となっているらしい。

漢字の起こり： 甲骨文字から始まった漢字の歴史は、中国という国の流れとともにその形を整えていったといえる。このように、漢字の歴史の解説が載っている。小学生向けに書かれているこの本には、漢字の歴史などの情報が漫画で描かれている。

なお、漢字の背景なども整理してある。

漢字の成り立ち：

漢字を次の6種類に分類している。

- 1) 象形文字： ものの形をかたどった字
- 2) 指事文字： 絵で書きにくい事柄を点や線などの印で表した字
- 3) 会意文字： 象形文字や指事文字を組み合わせて新しく文字を表したもの
- 4) 形声文字： 意味を表す部分と発音表す部分を組み合わせた字
- 5) 仮借
- 6) 転注

この分類を「六書」と言う。1) - 4) は漢字の成り立ち (作り方)、5) - 6) は、漢字の使い方についてのものだ。

漢字の部首：

漢字の勉強の際、主な部首を覚えなければということ念において、漢字の部首が紹介されている。「へん、つくり、かんむり、あし、たれ、にょう、かまえ」の整理した形でまとまっている。

部首を勉強して次は本場の漢字の勉強に入る。それは下記のように『漢字家族』『部首家族』ですらすらおぼられよう：

ある部分から成り立ついくつかの漢字のグループが「漢字家族」だ。それにより、ある部首からできたいくつかの漢字をその場で覚えることができる。

例えば、主の『漢字家族』を例に出してみよう。

『主』という字はろうそく立ての上で、じっともえている火を描いている字。

ひと所にじっと立っていることを表す。この字の家族に入る漢字は住、注、柱、駐などだ。

一つのページ上で漢字の意味も載っていれば、熟語と例文も付いている。こういうことが、漢字を勉強する時、能率よいと思う。

4-4 資料4)

この本に外国人が漢字を覚えるのに役立つクロスワードのワードゲームが載っている。3×3の9マスの形にされた二字熟語の漢字のワードゲームが作られている。漢字を覚えるために、よりよい方法として取り上げられていることがわかった。勉強の合間にこういうワードゲームなどやったら、遊びのついでに勉強できるのも間違いではない。

ところで、この本での漢字の提示順番をご覧いただきたいと思う。

2枚のページに一つの漢字とその漢字に関しての要素というペースで書かれている。例えば、『立』の漢字を例に出して見よう。

ON reading : RITSU

KUN reading : TA・TSU

Meaning: stand, establish

	立	

To the centre:

1. national
2. compatibility
3. establishment
4. independence

From the centre

1. to prove
2. fine, excellent
3. standpoint
4. stereoscopic

次は上記のクイズの解答が出ている。しかしながら、単語を、例文など抜きで一々覚えるのはややこしいものだ。それで、この本の著者は解答は例文付けに工夫したらしい。例えば、『国立』と解答が出ている場合、次のようにそれに例文を添えている。

国立：

東京大学は国立大学です。

Tokyo university is a national university.

上に述べた漢字の提示の流れを見ていくと、一つのことがわかってくる。それは、日本語と英語が両方とも混じっているとことである。なぜならば、この本の著者が対象としているのは、漢字を1から覚えたい人と漢字を英語で教えたい人だからである。

この本を通して分かったことは次のとおり：

英語がところどころ出ていることで、日本語と共に英語の勉強もできるわけだ。外国人の学習者のうち、通訳や翻訳の仕事を目指している方が多い。このような仕事を目指している人々には、2つの言語とも習得せざるをえない。このような本を通して、漢字を学ぶとともに英語の単語も勉強できるではないかと思う。

5 まとめ

以上のような資料を分析した結果、次のことが分かった：

1. 例文付であることの大切さ：

外国人向けの本で、各漢字が例文付に整理してあった。単語を習うとともに、その使い

分けも知っておくことは大事だと思う。

2. 2級の漢字テキストのいいところと不十分なところ：

2級受験者向けの本で、漢字の書き順や意味が載っていない一方、漢字や熟語の量が非常に多い。

3. 漢字を覚えさせるための工夫：

6年生の漢字テキストに、同音異義語や対義語や類義語によって漢字が分類されている。漫画を通して、単語の使い分けがはっきりされている。しかも、字が色付だから、学習者が関心を持ちやすいし、より早く覚えられる。

4. 漢字の勉強は基礎から：

小学生向けに作られた本で、部首を通して、漢字が紹介されている。やはり、部首は漢字の基礎になっているわけだ。

その一方、多くの外国人学習者は漢字の基礎的な勉強抜きに漢字を覚えていく。基礎的な勉強を身に付けないまま、進級に進むのはやや妙ではないか。

5. 漢字の書き順が載っているほうがいい：

小学生や中学生向けの本に、漢字とともに漢字の書き順も載っていた。書き順がその場で分かると、漢字辞典を引かなくてすむ。だから、漢字の本に書き順が載っていると、能率よく勉強できるかと思う。

6. 当て字の整理方法：

ほとんどの本で、全ての当て字がまとまった形になっていた。

7. 綺麗な字で漢字を書く：

いくつかの本に漢字を綺麗に書けるよう、習字が工夫されていた。点線に倣って、漢字を勉強すれば、字をバランスよく書けると思う。しかも、綺麗に見える。

6 結論

私が調べた資料では、提示順番やまとめ方に差を感じた。日本語の外国人学習者向けの本を作ろうとしたら、漢字を下記のように整理していきたい。

上記の1番目に参考した2級の本に基づいて、工夫を重ねていきたい。いくつかのポイントを追加したいと思う。それは次のとおり：

- 1) 一番最初に載せておきたいのは、たくさんの漢字に出てくる部首だ。
- 2) 画数の優先順位の高い順に、漢字を整理していきたい。
- 3) 漢字を載せて、すぐ隣に書き順を入れておきたい。漢字を書く際、書き順を知っておくことは一番必要だと思う。それは漢字をバランスよく書くためだ。
- 4) 次は漢字の具体的な意味を説明しておきたい。漢字の歴史までいなくても、部首と漢字の意味との関係を入れておきたい。

例えば、『誤』という漢字は「つじつまの合わないことをいう意味の呉と言を合わせ

た字」というような説明をしたい。

- 5) そして、その漢字からできている熟語を紹介したい。熟語を紹介しながら、例文を取り上げていきたい。それで、単語の使い分けがはっきりされると思う。
ここで工夫したいことが一つある。熟語を載せるとともに、その熟語は普段、どのような形で使われているかを述べたい。例えば、ある単語がニュースや新聞などに限って使われている反面、日常会話においては、あまり出てこない。こういう風な区別をはっきりさせたいと思い、ある単語があらたまった形でよく使われているか、それともくだけた形で使われているかを述べておきたい。両方に使われる単語も数々ある。その場合、単語に別な色を付けて書くほうがわかりやすいと思う。
- 6) 次は、その漢字の部首に関連する漢字を述べていきたい。ということは、同じ部首の漢字がその場で紹介しておけば、勉強の能率が上がるのではないかと思う。こういう風に漢字を整理していきたい。
- 7) 次の課題は対義語にして、ここまで述べた単語の対義語を整理したい。対義語の提示順番にあまりこだわらず、適当でもいいと思う。
- 8) 対義語の後に類義語を紹介し、意味にある微妙な差を説明していきたい。類義語はまとまった形に整理してあれば、わりと覚えやすくなるかと思う。

注)

資料1で用いられている用語である。「1つの音」の漢字は一つの音で表されている漢字のことで、「2つの音」の漢字は二つの音で表されている漢字のことである。

参考文献

武部良明(1989年)『漢字の教え方』株式会社アルク

資料

金田一春彦(2004年)「小学生の漫画漢字字典」学習研究社

田中かおる&藤井ひろし(1997年)『漫画で攻略—二字熟語なんて怖くない』実業之日本社

松岡龍美(1995年)『日本語能力試験に出る漢字2級』国書刊行会

氷井津記夫(1999)「Nine House Kanji Quiz」株式会社アスク